

第5回コアゾーン等整備検討懇話会 会議録

1 日時・場所

平成23年10月 3日(月) 10時から11時30分
姫路市役所 第3会議室

2 内容

(1) 審議事項

- ・ コアゾーン等のまちづくりについて

3 主な意見や指摘事項

(会長)

- ・ 今までに議論した意見が、まちづくりの基本方針にまとめられており、事業コンペの実施方針についても、意見をお伺いしたい。
- ・ 参考図は開発事業者に打診する時にコアゾーンの整備イメージとして必要になると思う。

(委員)

- ・ 12街区の導入機能について、学習塾は自動車による送迎で混雑すると思う。
- ・ コアゾーン南側の道路について、イベントゾーンへ繋がるので、自転車を含めた歩行者動線として検討して頂きたい。

(事務局)

- ・ ここで想定している学習塾は、小・中学生が利用するというよりは予備校的なものでバス・電車を利用する学生を想定している。
- ・ 自転車レーンについては、姫路の特性を考えると、必要だと認識している。
- ・ イベントゾーンへの交通支援機能として、駐車場のほか駐輪場も整備する必要があると考えている。

(会長)

- ・ 駅から距離があるので、東西軸に自転車レーンは必ず必要であり、早い段階から考えておく必要がある。

(委員)

- ・ 企業誘致の基本的な考え方の中で、姫路のイメージ向上として出来るだけ地元企業が参入出来ればと思う。
- ・ まち全体がミュージアムシティであるので、地域資源ブランドとして観光だけではなく産業全般のミュージアム的な施設があれば良い。公共だけではなく、企業が開放的なブースを持って頂き、姫路の匂いをビルに埋め込めれば良い。

(会長)

- ・ 単なる駅前ではなく、ものづくりが出来る都市としてアピール出来れば良い。

(委員)

- ・ Aブロックは駅に隣接しているので、住宅でない方が良い。

・水とみどりにあふれた環境共生都市の形成について、外堀川だけではなく他に水はあるのか。

(事務局)

・うるおい軸のあり方について、地下水を利用しようと考えていたが、ボーリング調査の結果では汲み揚げて流れ続けるほどの水量がない事が分かった。しかしながら、演出的な水は街としては必要であると考えている。

(会長)

・にぎわい軸・うるおい軸・街区内通路の3本は軸として多い。
・新幹線側に面するので、水とみどりにあふれた楽しい街としての演出は必要である。

(委員)

・イベントゾーンに歩いていく動線の考え方を教えて頂きたい。

(事務局)

・イベントゾーンまでの距離は駅から姫路城までと同程度なので、沿道に色々な仕掛けがあれば楽しく歩いていただける距離と考えている。
・イベントゾーンまでの南側の動線はデッキ整備も良いが、イベントゾーンまでの最短距離を考えると平面を中心に高架沿いが一番ふさわしいと考えている。

(会長)

・イベントゾーンと一体の考え方が必要と思う。

(委員)

・企業誘致の基本的な考え方について、もう少し絞り込む必要があるのではないか。

(委員)

・事業コンペは経済環境が厳しいので、急いで事業者を妥協して決定するのではなく、平成24年度にするなどメリット・デメリットを整理し、景気の上向きが見えてきた段階で実施してはどうか。

(委員)

・土地が広いので何か案を出していかないと市内企業の単独誘致は出来ない。
・高架沿いは騒音対策が必要となり、にぎわいのある施設というよりは駐車場等を建てる所が多いのではないか。

(委員)

・JR新駅ビルが出来るので、A・Bブロックへの商業施設はオーバーストアでそれほど必要ではない。
・姫路に来た方がお城だけ見て帰るのではなく、新幹線で来る人があそこに寄ってみようかとなるようにしたい。

(委員)

・異常気象による水害が増えてきており、川の周辺に住む住人としては怖い状況である。

・住民としては、後になって住民の手間が掛からない検討をして欲しい。

(副会長)

・一番気になるのが、事業が成立するのと言う点である。こういう街が出来れば良いなといった、新しい都市生活に対する提案を仕組みとして欲しい。

・次に気になるのが、軸が多すぎると言う点である。

・今までの議論でヒューマンスケールとか繋がりについて出てきたのは、どうしても再開発事業は自己完結になりがちで、周辺との関係が切れてしまう事が問題であり、街区の真ん中にオープンスペースが出来ればそれも軸になるので、にぎわい軸うるおい軸という言い方が良いのか、軸の整理が気になっている。

・今までは好ましくない機能について議論しましたが、実はSOHO(スモールオフィス・ホームオフィス)はどうなのか、居住機能にある細かい話しは議論していませんでした。

・無理に事業化を図るのではなく、少し時間をかけて段階的な整備計画が可能であれば、しばらくはオープンスペースで維持というスタンスもあるのではないか。

(委員)

・水とみどりには外堀川があるが、求める水は清流であって泥水では駄目なので、どこかで川の水を清流に変える必要があると思う。

(委員)

・全国各地で地域ブランドを作る動きがあるので、姫路でも今回の駅前開発が良いきっかけになればと思う。

・魅力のある産業・商業のスター作りとして、一社あたり10㎡程度の権利でアピールする場所をコアゾーンへ埋め込んで行く事が重要な要素である。

・地下駐車場について、建物が順次となると出入口が乱立し裏通りになってしまうので、全体的に考えて出入口は少ない形のモジュールで提案があればと思う。

(委員)

・基本的に事務局提案に賛成である。

・望ましい機能として、ICT関係のビジネスが欲しいと思う。

・12街区に書店が来るなら、児童書・参考書等があっても良いと思う。

・外堀川は唯一残された都心部のウォーターフロントですから、きちんと整備する必要がある。

・空も意識した立体的に上を見たりする街になればと思う。

・12街区をきちっと進めて行く事により、コアゾーンへも繋がっていくと思う。

・市会と市民への説明責任が果たせれば事業コンペが遅れても良いのではないのか。

(委員)

・事務局提案について賛成である。

・12街区は是非急ぐ必要がある。

(会長)

- ・都市ブランド形成として、産業を含めた姫路の打ち出し方の提案が重要である。
- ・ミュージアムシティといったキーワードが出ました。
- ・計画については、自転車レーンを含めて軸の整理が必要である。
- ・水とみどりについて、外堀川を整備してウォーターフロントとして、環境配慮型の楽しい都市を電車から見せる事も重要である。
- ・用途については、オーバーストア気味なのでそうではないものをA・Bブロックへ。
- ・マンション居住では働きながら住むという、IT系企業を積極的に誘致する事も必要では。
- ・12街区を急いでいるので、市の図書館の分室等の若い人が沢山来る施設が出来ればと思う。
- ・市側は買い手市場であるが、しっかりとしたポリシーを打ち出す必要がある。
- ・まちづくりのための暫定利用もあるのではないのでしょうか。

(委員)

- ・Cブロックに事業の実現性があるならば、先に開発を行う事で賑わいを作って、B・Aブロックの価値を高めて行ければと思う。
- ・商売としては無理して良い所から売るよりは、売りにくい所から売る事が定石なので、そういうやり方もあるかと思う。

(会長)

- ・大事なのは全体一体開発のメリット、あるいはデザインの共通性である。
- ・開発業者の言いなりではとんでもない街が出来てしまう気がする。

(委員)

- ・段階的な整備もあると言う事で、改めて認識をしたところである。
- ・地元企業の話しについて、例えば商工会議所の会員の皆様にアンケートするなど、テナント入居や企業のPRコーナーについて御意見の集約を行い、企業に対して情報提供したい。
- ・企業PRコーナーについては、商工会議所や農政経済局とも調整しながら検討を進めて行きたい。

(事務局)

- ・次回は11月7日(月)午後3時からこの会場で開催したい。